

令和7年度 業務進捗共有会

会 議 録

日 時：2025年8月1日（金）午後2時開会
場 所：札幌市立大学桑園キャンパス 管理実習棟2階 大会議室

1. 開 会

○細川委員長 それでは、時間となりましたので、令和7年度業務進捗共有会を開会いたします。

私は、委員長を務めます北海道大学名誉教授の細川でございます。よろしくお願ひいたします。

皆様、本日は、業務がご多忙の中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、札幌市立大学の皆様におかれましては、第四期中期計画の事業実施2年目ということで、非常にご多忙の中を本日の業務進捗共有会にお越しいただき、感謝申し上げます。

本日の業務進捗共有会は、地方独立行政法人法の改正に伴い、年度評価が廃止となりましたが、お互いの円滑なコミュニケーションと事業進捗状況の確認の場として第四期中期計画における中間評価・期末評価に向けた業務実績に関するヒアリングを実施させていただくものです。

本年度の評価委員につきましては、全員が昨年度に引き続き留任しております。昨年度の状況を把握した上で本日のヒアリングをさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

簡単ではございますが、以上で私のご挨拶とさせていただきます。

それでは、本日は、最後までよろしくお願ひ申し上げます。

続きまして、公立大学法人札幌市立大学の中島秀之理事長にご挨拶をいただきます。よろしくお願ひいたします。

○中島理事長 中島です。

細川委員長をはじめ、委員の皆様には、本当にお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私も、今の大学の中間評価というのをやっていて、結構面倒くさいのはもう重々承知しています。本日は、それよりはインフォーマルかなと思いますけれども、ぜひよろしくお願ひします。

○細川委員長 中島理事長、ありがとうございます。

本日の業務進捗共有会では、次第にもございますとおり、第四期中期計画における中間評価・期末評価に向けた業務実績に関する進捗報告に関するヒアリングを行います。

ヒアリングに先立ちまして、既に札幌市立大学からの報告書、第四期中期計画指標達成状況一覧を各委員において確認の上、各自のコメントをまとめております。

このヒアリングでは、各委員から取組の状況や今後の方針などを確認させていただき、ヒアリング終了後の第2回評価委員会におきまして、評価委員会としての最終確認をさせていただくこととしております。

ここからは、私も質問する側となりますので、進行を事務局の児玉企画課長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（児玉企画課長） 札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課長の児玉と申します。これ以降の進行は、私の方で行わせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

本来であれば、本日、ご出席いただいている評価委員の皆様と札幌市立大学の皆様をご紹介させていただくところがございますけれども、限られた時間でございますので、誠に恐縮ではございますが、お手元にお配りしております資料1の出席者名簿にてご確認をお願い申し上げます。

2. 議 事

○事務局（児玉企画課長） それでは、議事に入ります。

議事を進めるに当たりまして、お手元にお配りしております資料の確認をさせていただきます。

まず、A3判横の片面印刷の資料2、第四期中期計画成果指標達成状況一覧、次に、A4判でホチキス留めの資料3、令和6年度事業報告書、最後に、A4判縦の資料4、第四期中期計画における中間評価・期末評価に向けた業務実績に関するヒアリング項目表でございます。

お手元に資料はおそろいでしょうか。

それでは、配付資料に関する確認を終わります。

初めに、札幌市立大学より、第四期中期計画における中間評価・期末評価に向けた業務実績に関する進捗報告を行っていただきます。よろしくお願いいたします。

○江積事務局次長 事務局次長の江積でございます。

私から説明させていただきます。

当法人の2024年度における業務の進捗状況についてご説明させていただきます。

資料2の一覧に沿って説明させていただく前に、今年度実施いたしました自己点検・評価の概要を口頭で簡潔に説明させていただきます。

地方独立行政法人法の改正による年度計画の廃止を受けまして、当法人では、2024年度より、毎年度、アクションプランを策定し、これの自己点検・評価を実施することで、中期計画の進捗管理及び業務の蓄積を図り、中期計画の4年間終了後と6年間終了後に札幌市地方独立行政法人評価委員会へ提出する実績報告書の作成に活用することといたしました。

アクションプラン2024では、全50項目に成果指標を設定し、取り組んでまいりました。

各項目につきましては、ⅣからⅠの四つの評価区分で自己評価することとし、Ⅳ評価は、アクションプランを上回って実施している、Ⅲ評価は、アクションプランを十分に実施している、Ⅱ評価は、アクションプランを十分に実施していない、Ⅰ評価は、アクションプランを実施していないとなっております。

2024年度は、全50項目のうちⅣ評価が10項目、Ⅲ評価が40項目、Ⅱ評価、Ⅰ評価はなく、アクションプラン2024を適切に実施することができたと評価しております。

本日は、2024年度の主な取組として、アクションプランを上回って実施しているとしてⅣ評価とした10項目について簡潔にご説明させていただきます。

それでは、資料2の一覧をご覧ください。

まず、1ページ目、教育に関する目標を達成するための措置から、項目番号9のキャリア支援体制の充実、キャリアガイダンス等の多様な取組に関する項目についてであります。

成果指標である就職内定率につきましては、デザイン学部では93%に対して97%、看護学部では97%に対して100%といずれも上回っており、キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合の指標では、デザイン学部は80%に対して92%、看護学部は80%に対して100%と、こちらも指標を上回りました。

また、看護学部では、選択科目、インターンシップの新設について検討し、2025年度から新設することといたしました。

次に、一覧の2ページ目をおめぐりください。

研究に関する目標を達成するための措置から、項目番号14の札幌市の社会課題解決に資する研究に関する項目についてであります。

学内競争的資金を有効に活用するよう工夫した結果、成果指標の札幌市の社会課題解決に資する研究10件に対して34件と大きく上回ったものであります。

次に、項目番号15のPCC、プレコンセプションケア研究に基づく高校生をターゲットグループとする公開講座等の開催に関する項目についてであります。

PCC、プレコンセプションケアに関する教育研究を行っている教員に対して、公開講座等の企画立案を依頼し、成果指標であるPCC研究に基づく高校生をターゲットグループとする公開講座等の開催1回に対して4回の実施、また、公開講座の受講者理解度4.0に対して4.7といずれも指標を大きく上回りました。

また、高校生のみならず、大学生にも有意義なテーマでありますことから、公開講座の運営に本学学生を加えて実施したものであります。

次に、項目番号17のURAの配置、DNA連携の研究推進、地域産学連携事例の積極的公表についてであります。

地域産学連携協力依頼の制度や過去の連携事例の周知を行った結果、成果指標が地域産学連携協力依頼による成果の公表10件のところ、12件と指標を上回りました。

また、一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構が開校するURASキル認定制度のFundamentalレベルを職員2名が受講し、現在は2名とも修了してお

ります。

次に、3ページ目をおめくりください。

地域貢献に関する目標を達成するための措置から、項目番号19の看護コンソーシアム事業の発展に関する項目についてであります。

看護コンソーシアム会議での検討の下、大規模災害対応、看護倫理を加えて再編した研修を実施したほか、履修証明プログラム開設に向けて検討を行いました。

特に、看護コンソーシアム事業につきましては、日本経済新聞社が開催した日経リスクリングアワード2024に応募したところ、医療・介護業界のリスクリングの貴重な実践例であり、産学連携のモデルケースとなっていることなどが評価され、審査員特別賞を受賞したものでございます。

次に、項目番号22の市民向けの公開講座の開催に関する項目についてであります。

市民向け公開講座につきましては、対面、オンライン、ハイブリッドといった形式で開催したほか、申込み多数で定員を超えた公開講座については、追加で開催をいたしました。

成果指標につきましては、公開講座の受講者満足度4.5に対して4.6、公開講座の開催25件に対して40件と指標を上回ったものであります。

次に、4ページ目をおめくりください。

教育・研究・地域貢献の取組を推進する大学運営に関する目標を達成するための措置から、項目番号27の国際学会・国際展示及び国際誌における研究成果の発表に関する項目についてであります。

学術奨励研究費の補助制度が浸透したことや国際学会誌への投稿の意識醸成により、成果指標の国際学会・国際展示及び国際誌における研究成果の発表17件に対して26件と大きく上回ったものであります。

次に、項目番号28の海外大学との学術交流、新規提携大学の獲得についてでございます。

交換留学を支援する補助金等に応募する学内申込制度を再整備したほか、成果指標の提携校との交流4件に対して6件、留学フェアの開催1回に対して2回と指標を上回ったものでございます。

次に、項目番号31のサテライトキャンパスの有効活用、外部機関との連携促進についてでございます。

サテライトキャンパスの効率的な運用に努めました結果、成果指標の外部機関や他大学等との連携の場としてのサテライトキャンパスの利用2,500人に対して2,933人の利用があり、指標を大きく上回ったものでございます。

最後に、5ページ目をご覧ください。

項目番号36のデジタル化の推進、既存業務の見直しの推進に関する項目についてであります。

情報基盤センター主催で、Microsoft 365を活用した内製開発のための研修を行うなどした結果、現在、紙を利用して受け付けている学内申請業務のオンライン化3件分に対して24件分と指標を大きく上回ったものでございます。

簡単ではございますが、以上がアクションプラン2024の進捗状況の概要でございます。

私からは、以上でございます。

○事務局（児玉企画課長） それでは、ただいまご説明いただいた内容について、評価委員の皆様より、資料4のヒアリング事項表に記載の順番に沿って項目ごとにご質問を行っていただきます。

その後、回答につきましては、札幌市立大学に行っていただきます。

なお、資料4に記載の項目以外にもヒアリングは可能ですけれども、お時間に限りがございますので、本業務進捗共有会にて取り扱うことができなかったヒアリング事項につきましては、この後に開催されます第2回評価委員会において委員の皆様からいただいた内容を事務局にて整理した上で、大学側へお伝えし、後日、委員の皆様へご回答させていただければと考えております。

初めに、項目ナンバー1、該当部分の良好な成績についてにつきましては、細川委員長よりご質問をお願いいたします。

○細川委員長 それでは、第四期中期計画指標達成状況一覧におきまして、私が担当する指標番号4、6、16から21、27から29、37、38、48から53、60から67は、良好な成績であったと判断いたしまして、高く評価しているところでございます。

特に、国際化の指標はよくできている印象を持ちました。4年間担当してまいりましたが、特に、コロナ禍が終わる前後の国際化があまりうまくいっていませんでした。それが、かなりよくなってきております。

このように、コロナ禍前の状況に戻すには、相応の努力があったものと推測しております。大学側より、このような結果となった理由や主に取り組んだ内容についてお伺いしたいと思います。

また、今後、この国際化に関する強みをさらに生かしていくための検討事項がありましたら併せてお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○樋之津看護学部長 副学長、看護学部長の樋之津でございます。

私からは、項目番号26のTOEICについてご説明いたします。

TOEICは、本学1年次の2月頃にオンラインで受験するように学内のポータルで促しております。受験料につきましても、父母による後援会から半額の助成を受けているところで

す。それから、国際的な共通性と多様性の理解を深めるということで、該当する科目の内容を両学部の教務・学生連絡会議というもので点検しまして、科目を履修する学生に対して、その意義を認識してもらって、授業で周知したり、シラバスへの記載などをして国際化を促しております。

以上です。

○石井研究支援地域連携センター長 研究支援地域連携センター長の石井と申します。よろしくをお願いします。

私からは、項目番号27と28の項目についてお答えいたします。

まず、項目番号27ですけれども、国際誌における論文の掲載件数が伸びたことが一つのキーになっていると考えております。

本学には、学術奨励研究費において、論文掲載料及び投稿料を補助する仕組みがありまして、これを確実に周知し、利用の促進を行いました。

また、学術奨励研究費の国際学会・国際展示会発表者補助、それから、学術論文掲載料等補助の募集要項を見直しまして、申請1件当たりの補助上限額を引き上げるということを行いました。

今後、ますます利用者が増えて、国外における研究成果の発表が促進されるということを考えております。

続きまして、項目番号28についてお答えします。

国際交流に関してです。

英語圏の海外大学との新規協定締結に向けた取組を今も取り組んでいるところでございます。

本年度は、アクションプランに沿って、候補先の大学に対して交流の打診を始めようとしているところです。

それから、提携校との交流につきましては、オンラインを活用しつつ、これからも交流を継続したいと考えております。

なお、現在、研究支援地域連携センターでは、海外大学との一層の交流促進を図るため、短期の受入れ事業におけるプログラムを考えようとしています。プログラムをつくりまして、大学のウェブサイト等にこういうプログラムがありますと紹介していくことを考えておりまして、これで交流のイメージというものを海外の学生あるいは先生方に理解していただき、本学への興味を持っていただけると考えております。

それから、国際交流・留学フェアというものをやっているのですが、2024年度からは、従来行ってきた年1回の開催に加えまして、新1年生を対象とした春の開催も行っています。この国際交流・留学フェアについては、毎回10名から20名ぐらいの学生の参加がございまして、学生の皆さんの留学への関心を高めることができると考えております。

また、留学の事例や体験談の紹介のほか、学内外の留学支援制度の情報提供をするなど、これからも学生たちに有益な情報を提供したいと考えております。

以上です。

○細川委員長 どうもありがとうございました。

○事務局（児玉企画課長） 本件につきまして、委員の皆様よりご質問等はありませんか。
（「なし」と発言する者あり）

○事務局（児玉企画課長） 続きまして、資料4の項目ナンバー2、目標を下回っている状況について、細川委員長よりご質問をお願いいたします。

○細川委員長 私が担当した中で、同じ資料の指標番号3、5、7、9、11の満足度や達成度あるいは行動変容率の指標は、いずれも学生の自己評価を基に算出したものとなっているかと思えます。

昨年度のデータを見ますと、目標に到達していないだけではなくて、一昨年度を下回る場合も見られています。1項目ぐらいだとそんなものかと思うのですが、複数の項目で同じ状況ですので、心配しております。

学生の皆さんが大学がやっております教育への評価を低く判定したのはなぜかということでございますが、昨年卒業された方ですので、ちょうどコロナ禍の影響をもろに受けたグループだと思いますが、推測でも結構でございますので、なぜこうなったかという理由、それからもう一つ、今後、これらの項目をよくしていくための方策を既に実施されていられれば、そういうこともお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○齊藤デザイン研究科長 デザイン研究科長の齊藤でございます。

私からは、今、委員長からご指摘をいただきました項目番号3の指標番号3について、大学院のデザイン研究科の博士前期課程の修了時における在学中の教育に対する総合的満足度に関して、我々の考えていることをお話しさせていただきたいと思えます。

今、こちらにお示ししている数値は、61.9%から73%になって昨年度よりは改善しているのですが、いずれにしても、80%の成果指標を下回っております。

2021年度から2023年度の3か年平均を見たところ、特に、2022年度のアンケートが指標の80%を大幅に下回る結果でございました。

これは、まず、今、委員長からお話があったように、2023年2月に実施したアンケートでございまして、年度が明けて5月にはコロナが5類に移行するというタイミングの直前で実施したものだったということと、そもそも、私どものアンケートの実施手法がうまくなかったと反省しているところですが、回答率がこの年度だけ極端に低かったということがございまして、信頼性に足る結果が得られなかったことを要因として挙げております。

コロナはもうしょうがないので、アンケートの回収方法について見直しまして、それ以前は、ウェブアンケートという形で、オンラインで集計を取っていたのですけれども、次の年度から、2月の公開発表会のときにアンケートに回答するよう協力を促して、回答率を上げるということにつなげました。

その結果、単年度で見ると、満足度が、2023年度は86.7%、2024年度は93.8%と、新しいところでは指標が上昇していることを確認しておりまして、今後もこれを維持・向上させていけたらと考えております。

私からは、以上になります。

○貝谷看護学研究科長 看護学研究科長の貝谷と申します。

引き続き、私から指標番号5についてご説明いたします。

修了時における総合的満足度3年分の平均ということで、成果指標90%にしておりましたが、80%ということで下回っております。

この成果指標は、3年間の平均ということで出しておりますが、単年度で見ますと、2022年度が100%、2023年度が80%、2024年度は100%というような満足度の結果でございました。2023年度は母数が5人と非常に少ないということもございまして、数名の回答の変化が大きく影響するということもございました。

ただし、80%ということで前年度を下回っておりましたので、2024年度から、これを改善すべく、学生からの意見聴取、教職員が一緒にお茶を飲みながらコミュニケーションを取

るというような場を設けまして、円滑なコミュニケーションが取れるような環境を、今、整備しております。

また、今年度もこれを引き続き行っていく予定で、学生の意見を細かく聴取して満足度の向上につなげていきたいと思っております。

私からは、以上になります。

○椎野デザイン学部長 デザイン学部長の椎野でございます。

私から、項目番号5、指標番号7、卒業時にデザインの専門能力が身についたと認識した学生の割合についてご報告させていただきます。

当該指標でございますけれども、達成が極めて困難な数値を設定しております。理想値といったしまして、お手元の資料でございますように100%を掲げさせていただいております。こちらですけれども、2023年度のアンケート結果ですと、93.1%の学生が卒業時にデザインの専門能力が身についたと認識をしております、前年度の2022年度のアンケート結果は92.1%より上昇しております。

このようなことから、教育効果は十分に上がっているものと認識をしております、今後も取組を継続していくという考えを持っております。

なお、2024年度のアンケート結果でございますが、こちらは95.0%ということで上昇傾向にあることを申し添えさせていただきます。

報告は、以上でございます。

○樋之津看護学部長 私からは、項目番号7、指標番号9についてですけれども、卒業時に地域の健康課題に対応する実践能力を習得したと認識した学生の割合というもので、目標は80%でしたが、今回、達成状況は68%でした。

こちらにつきましては、昨年度から札幌市や北海道における健康課題を精査して、それを科目の中の履修課題に位置づけていくことを始めまして、当分、これらを授業の中で意識づけて教育していくこととなりますので、成果指標に表れるには、まだもう少し時間がかかるかと思っております。

それから、項目番号8、指標番号11の履修前後のポジティブなPCC行動変容率に関しましては、昨年度からこのプレコンセプションケアに関して看護学部の教育の中で導入いたしました。

まず、このチェックシートを用いた履修前後の行動変容を比較評価するという項目が立っております、この成果指標が、令和6年度は、学生1人当たり15%の行動変容率を見ているのですが、このアンケートは無記名で行っております、学生の1人当たりの行動変容率を見ることは非常に難しいということが分かりまして、指標を少し考えなければいけないと思っております。

回答者数全体が行動変容したことを見ようとしていたのですが、それが昨年度は1.8%で、学生が既により健康な生活に向けた行動を取っていることが分かりました。昨年度は2年生に行ったのですけれども、2年生では既にこうした行動変容を行っているのではないかと考えまして、ですから、今年度は1年生で、しかも、入学したばかりの学生を対象にして、1年間でいろいろな学びをして行動変容するのではないかと想定しております。それで、1年生の前期と終了時に、この行動変容率を取ろうとしております。そこで全体として15%ぐらいの行動変容が起こってほしいと思いつつ、今、教育しております。

以上です。

○細川委員長 どうもありがとうございます。

○事務局（児玉企画課長） それでは、本件につきまして、委員の皆様よりご質問等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（児玉企画課長） 続きまして、資料4の項目ナンバー3、PCC研究の概要とターゲットについて、高崎委員よりご質問をお願いいたします。

○高崎委員 高崎より質問させていただきます。

第四期中期計画指標達成状況一覧の項目番号15、指標番号23で、PCC研究に基づく高校生をターゲットグループとする公開講座等の開催という指標を掲げられておりますが、不勉

強で大変恐縮ですが、PCC研究の概要をまず教えていただきたいのと、今回指標になっている高校生にターゲットを絞っている理由につきまして教えていただければと思います。

○石井研究支援地域連携センター長 研究支援地域連携センターの石井から回答いたします。プレコンセプションケアは、若いときから将来のプランを考えて日々の生活と向き合って健康を管理していくというヘルスケアになっております。

多くの研究者が妊娠や出産を計画していない早い段階からPCCを知ることが重要であると指摘していますし、多くの研究者や自治体で、高校生や大学生を対象とする取組や研究がたくさんなされております。

我々のほうで、それらの研究をいろいろ分析させていただきまして、これは推測になってしまうのですが、妊娠や出産を意識していない年齢層がターゲットのためなのか、何となくあまり十分な効果が出ているというふうには読み取れないと思っております。

本学が現時点で高校生をターゲットにしているのは、PCCは早い段階からやったほうが良いということですが、かといって、センシティブな内容を含んでおりますので、中学生ぐらいだと早過ぎるのではないかと、高校生ぐらいが理解や共感を得やすいのではないかと考えて、高校生を対象としております。

なお、本学は、北海道大学が中心となって行っております一つの研究プロジェクトに参画しております。こちらは、若者が心と体を理解する仕組みづくりをしましょうということや、あとは、自分自身の将来の選択肢を増やすための取組を行っていきましょう、他者とともに自分らしく生きていくための社会を実現するための研究を行っていきましょうなどというようなプロジェクトでございます。こちらに参画しながら我々は研究を進めておまして、中学生ではなく、まずは高校生からスタートしたいと考えております。

もし高校生でやってみて、いい結果が得られたら、次は大学生を中心にやっていきたいと考えております。

以上です。

○高崎委員 ありがとうございます。

○事務局（児玉企画課長） それでは、本件につきまして、委員の皆様よりご質問等はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（児玉企画課長） 続きまして、資料4の項目ナンバー4、教職員の充足状況について、安酸委員よりご質問をお願いいたします。

○安酸委員 指標番号73の定数に基づく教職員の採用の評価を見たら丸と書いてありまして、ここをもう少し詳しく教えていただきたいということで、質問させていただきます。

理由といたしましては、去年は看護学部の退職者がかなり多く、埋まっていない感じだったのですが、今回は、ほかを見てみますと、研究等でかなり頑張っただけで成果を出しておられます。ですから、もしかして、人数が少ないけれども、やらなければいけないことがすごく多いのではないかと。なおかつ、休みなど、いろいろなことがちゃんとできているのですが、それでも、看護は本当に人がなかなかそろっていく状況があるので、その辺が心配で聞いてみました。

教員の定員数の一覧を見ましたら、2024年度では看護科の44名定員のところが34名、私の頭では8名だったと思っていたら10名も減っていて、違ったのだと思ったのですが、2025年は41名になっているところから、人数がかなり補充できたのだと思いました。

ただ、一番下を見ると、合計のところ、定数86で現員が84とあるのですが、上にあるものを合計すると79名なのです。だから、2名減っているだけではなく、ぱっと見たときに、デザインも2名、看護も3名少ないし、A I Tも2名少なく、それで、去年のものを見たら74名とあるけれども、これも計算したら71名だったので、下だけぱっと見て、今年はまだ2名欠けただけでそろったのかなと思ったら、実際に計算したら違ったというところがありました。

A I Tも1名で頑張っておられたのが1名追加になったのだなど。この表を見せていただく

ことで全体としてのアウトカムをかなり出しておられるので、それを担う先生方の負担が心配だったので、質問させていただきました。これを見せていただきましたので、そろってきたのだなと感じております。質問というか、特に、これを知りたかったということでございました。

○櫻井事務局長 事務局長の櫻井でございます。

この表の見方を説明させていただきたいのですけれども、表の中で、文字が小さくて申し訳ないですが、2025年度のデザイン学部の下の方に、米印で、このほか、特任教授1名、特任准教授1名となっていますが、実は、この2名が31名にプラスされていないのです。31名プラス2名ということで、ここは0名です。看護学部で言いますと、特任講師1名と特任助教が1名ということで、実は43名で、マイナス1名です。そして、A I Tセンターも、特任教授が1名ということで、マイナス1名ですので、これらを考慮すると、86名に対して84名になります。

見づらくて申し訳ないですが、実はこういうことになっておりまして、2025年度当初については、現員数が2名欠員という状況になっております。

2024年度に減員数12名から2025年は2名になったところの経緯をご説明したほうがよろしいでしょうか。

○安酸委員 私たちのような私立大学では、人件費率をすごく問われまして、この数名違うということも、人件費率とすると随分違うのではないかと感じたりしながら見ていました。説明していただければありがたいです。

○櫻井事務局長 委員ご指摘のとおり、2024年度につきましては、もともと12名の欠員がありまして、定数を大きく下回っているところでございます。

実は、この12名に加えまして、年度途中で2名の退職、それと、定年退職等もありまして、年度末には5名が退職ということで、合計19名の欠員が見込まれていたところでございます。

この19名の欠員の補充につきまして、積極的に採用活動を行ったところ、その結果、17名の教員を採用することができたところでございます。まだ定員を2名ほど満たしていないのですけれども、大幅に改善してきているかなということで、一応、丸ということにさせていただいたところでございます。

あとは、ご質問にありましたワーク・ライフ・バランスにつきましては、この教員の採用活動に加えまして、教育補助員の採用により業務の負荷の分散を図ること、それに加えまして、夏季の一斉休業というものを設けまして、休暇の取得奨励を行った結果、教職員の有給休暇の取得率が2023年度の16.5%から、2024年度は36.5%で、約20ポイント上昇したという状況でございます。

以上でございます。

○事務局（児玉企画課長） 本件につきまして、ほかの委員の皆様よりご質問等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（児玉企画課長） 続きまして、資料4の項目ナンバー5、FD研修会の理解度について、高崎委員よりご質問をお願いいたします。

○高崎委員 高崎より質問させていただきます。

項目番号39、指標番号77のFD研修会の内容を理解し、得た知見が業務遂行の参考になった割合を指標としておりますが、本来は、参考になっただけではなく、どの分野がどのように参考になったなど、具体的な内容を共有できたほうがその内容を評価できることにつながると考えております。

そういう評価ができる仕組みがあったほうが教育の資質向上につながるとは思いますが、その指標の設定につきまして、ご意見をお伺いできればと思います。

○福原教務・学生支援担当部長 教務・学生支援担当部長の福原と申します。

私から回答させていただきます。

まず、ご意見をいただきまして、ありがとうございます。

内容的にどういったところが参考になったかに関しては、研修会をやったときに必ずアン

ケートを取っておりまして、今後は、そのアンケート項目に、参考になったと答えた場合は参考になった具体的な箇所を記述するような項目を設けまして、それをまたFD委員会内で共有することで、内容の評価と今後の企画の材料としていきたいと考えております。

以上です。

○高崎委員 承知いたしました。

ありがとうございます。

○事務局（児玉企画課長） それでは、本件につきまして、ほかの委員の皆様より追加のご質問等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（児玉企画課長） 続きまして、資料4の項目ナンバー6、経費捻出の成果指標について、高崎委員よりご質問をお願いいたします。

○高崎委員 引き続き、高崎から質問させていただきます。

項目番号43、指標番号88の一般管理費からの経費捻出の成果指標が1,000万円となっておりますが、本来、予算を精緻に作成している場合は、その経費の削減というか、経費の捻出は難しいものなのかなと考えております。

それで、こちらも成果指標として金額だけで計るのではなく、その捻出の過程、例えば、教職員全体の努力によって効率化した項目がある、数年前でしたら新型コロナウイルス感染症などの特殊要因があって経費がかからなかったなど、何か理由があると思いますので、その理由を評価できる仕組みがあったほうがよいかと考えておりますので、ご意見を伺えればと思います。よろしくをお願いいたします。

○櫻井事務局長 事務局長の櫻井からご回答させていただきます。

委員ご指摘のとおり、やはり一般会計からの経費捻出というのはかなり難しいものでございます。

私どもといたしましては、第四期中期計画、そして、アクションプランにおいて、教育や研究の向上につながる戦略的な経費を生み出すということで、管理的経費の節減に向けた取組を行うこと、特に、光熱水費の抑制に努めるということをしております。具体的には、毎年度、夏と冬に節電計画と数値目標を策定いたしまして、これを学内に周知した上で、全教職員が節電行動に努めるということにしております。その結果につきましても、学内の委員会におきまして共有し、次年度の取組に反映しているというところでございます。

今後も、こうした取組を継続していくということで、夏、冬の節電計画、そして、数値目標を毎年度策定しますアクションプランに掲げまして、経費節減の実効性を高めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○高崎委員 ありがとうございます。

○事務局（児玉企画課長） それでは、本件につきましても、ほかの委員の皆様より追加のご質問等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

3. 質疑、意見交換

○事務局（児玉企画課長） 本日本日予定しておりました質問項目に関するヒアリングは、以上でございます。

全体を通しまして、追加のご質問や、札幌市立大学より何かお伝えしたい内容等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（児玉企画課長） ないようですので、これ以降の議事につきましては、細川委員長、お願いいたします。

4. 事務局からの連絡事項

○細川委員長 皆様、お疲れさまでした。

最後に、事務局より連絡事項がありましたらお願いいたします。

○事務局（児玉企画課長） それでは、事務局より連絡事項が1点ございます。

本日の今後の流れでございますけれども、この後開催いたします第2回評価委員会におきまして、本業務進捗共有会で行った意見交換の内容や、時間の都合上ヒアリングし切れなかった項目、次年度以降の業務進捗共有会に向けた運営方法の改善事項等につきまして、評価委員の皆様にご審議いただく予定となっております。

その内容につきましては、後日、札幌市立大学と共有させていただきます。

今年度が評価のない初めての年度でございましたので、来年度以降も今回のようなやり取りで進めてよろしいかどうか、双方のご意見を伺いながらよりよいものとしてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

事務局からは、以上でございます。

○細川委員長 ただいまのことについてご質問はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

5. 閉 会

○細川委員長 それでは、ご質問等がなければ、本日の業務進捗共有会は終了とさせていただきます。

札幌市立大学の皆様におかれましては、長時間にわたり答えをいただき、感謝いたします。

それと、私と高崎委員は、任期が終了いたします。短い間で、かつ、時々厳しい評価をしたかと思いますが、いずれにしても役職上やっておりましたことで、それが市立大学の発展につながればと考えております。

この役職をいただいたことは、非常に光栄に感じております。今後とも札幌市立大学が発展されることを祈っております。

それでは、評価委員の皆様におかれましては、第2回評価委員会を10分後の15時からこちらの会場で開催させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、皆さん、本日はどうもありがとうございました。

以 上